

バーチャルに希望を見いだす令和の日本人 ―『希望格差社会、それから』に寄せて

中央大学文学部教授 山田昌弘
やま だ まさひろ

- *平成時代に日本の格差は拡大した
- *地方で少子化が進み、離婚率が上昇している
- *経済は停滞しても、プチ幸せで生活満足度は上昇
- *昭和は「格差が乗り越えられ」と信じられた社会
- *「希望格差」を生んだ若者の経済格差
- *心の格差を埋める「バーチャルな世界」
- *ベットと「推し」に時間もお金も使いたい
- *平安後期、江戸後期、そして今
- *幸せに衰退していくことを甘受する
- *地方で女性や若者がもつと活躍できるように



山縣 それでは開会いたします。（拍手）

今日は社会学者の山田昌弘先生にお越しいただきました。山田先生は東京大学文学部を卒業されて、東京大学大学院社会学研究科で教育社会学という分野を研究されてこられました。今は中央大学で教鞭を執っていらっしゃいます。皆さんが知っていらっしゃる言葉で、たとえばパラサイト・シングル、婚活、格差社会などは、先生がご著書の中で、造語として発信されたものです。

これらは、先生が一つ一つの言葉の背景である社会を観察されて発信されているので、言われてみればそうだと、みなが理解できる形で広まっていきました。

私ども出版社は、キーワードを社会になるべ

く広めたいと思っていますが、勝手に言っても広がっていきません。きちんとした裏付けがあり、皆さんの納得を得ない限り、キーワードは定着しないのだと思います。

先生は東洋経済から『なぜ若者は保守化するのか』、編著で『婚活』現象の社会学『など出されました。今では当たり前の話ですが、早い段階でこういう問題を指摘されてきた方であります。そして今年1月に『希望格差社会、それから』という、意味深なテーマのご本を書かれました。ご興味があれば手に取っていただきたいと思います。

では先生、今日はよろしくお願いいたします。

（拍手）

山田 こんにちは。雨が降りそうの中、おい